

かんさい

医なび

喉頭がん

ミュージシャンのつくくさんが4月、喉頭がんの治療で声帯を摘出し、声を失ったことを明らかにしました。同様の経験を持つ患者は少なくありませんが、再び声を出せる方法もあります。

なぜ起きるの？



喉頭は、呼吸の際に肺から口へ空気が通る「気道」の一部で、いわゆる「のど仏」にあたります。

声帯は、喉頭の一部をなす組織です。私たちが声を出す時、吐く息によって声帯が振動します。それが息に伝わり、口の形を変えることで声として聞こえます。

喉頭には、飲食物が気管に入らないよう「ふた」をする役割もあります。

喉頭がんは声帯にできることが多く、患者の大半は喫煙者であることから、たばこが最大の原因

声帯摘出 再び発声も

27.7.16 Y(19)②

喉頭がんと手術後の発声法



食道や口腔の空気振動

とれます。

どんな症状？



長引く声のかすれやのどのイガイガ感が典型的な症状です。がんが進行すると血の混じった痰が出たり、のどの痛みを感じたりします。呼吸困難が起きることもあります。

早期がんでは、放射線治療や声帯を残す手術で完治を目指します。声を失うのは主に進行がんで、最初から声帯を含む喉頭全体を摘

府県	病院名	代表電話
大阪	府立成人病センター	06-6972-1181
	大阪大	06-6879-5111
	大阪市立大	06-6645-2121
	関西医大枚方	072-804-0101
京都	府立医大	075-251-5111
	京都大	075-751-3111
兵庫	神戸大	078-382-5111
	県立がんセンター	078-929-1151
奈良	県立医大	0744-22-3051

多い関西の主な病院

出する場合、放射線治療後に再発した場合です。喉頭を摘出する際、首の下の方に穴を開けて気管に

どう治すの？



つなぎ、そこから呼吸をします。手術前の声は失われてしまいます。

声を取り戻す方法はいくつかあります。一つは食道の粘膜を振動させる「食道発声」。食道の中に空気を取り込み、げっぷのように逆流させながら声を出します。練習すれば多くの人は数か月で習得できます。声が低く小さくなりやすいですが、声を増幅し聞こえやすくする機器もあります。

最近では、手術で気管と食道をチューブでつなぎ、声を出す「シャント発声」も広がりつつあります。首の穴を指で押さえ、肺からの空気をチューブを通して食道に送り、粘膜を震わせて声を出します。食道発声よりも簡単で、大きな声も出せますが、チューブの定期的な手入れや定期的な交換が必要です。

※監修 藤井隆・大阪府立成人病センター（大阪市東成区）耳鼻咽喉科主任部長（日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医）

*「医なび」では、身近な病気の知識や治療の情報をお伝えします。科学医療部 oykagaku@yomiuri.com